

# 訪問先

□10月8日(土) 成田空港発 トルコ航空利用 イスタンブール

10:00 成田空港 第一ターミナル南ウイング集合

□10月9日(日) イスタンブール

タウトが在日中に招聘を受けたイスタンブール芸術アカデミーは、現在「ミーマール・シナン大学」と呼ばれています。ここを訪問します。ミーマール・シナンとは16世紀のトルコ人建築家でスレイ・マニエモスク初めモスクを多数建設しました。どれも釣合が良く、タウト著の「建築芸術論」でもシナンを高く評価し、尊敬していました。タウトの言葉「建築は釣合の芸術である」はここから出ています。ビザンチン建築最大の聖堂「アヤ・ソフィア」に尖塔を添えてイスラム化した意匠としたのもシナンです。

午後は、市内観光

□10月10日(月) イスタンブール

トルコの外断熱事情を視察します。

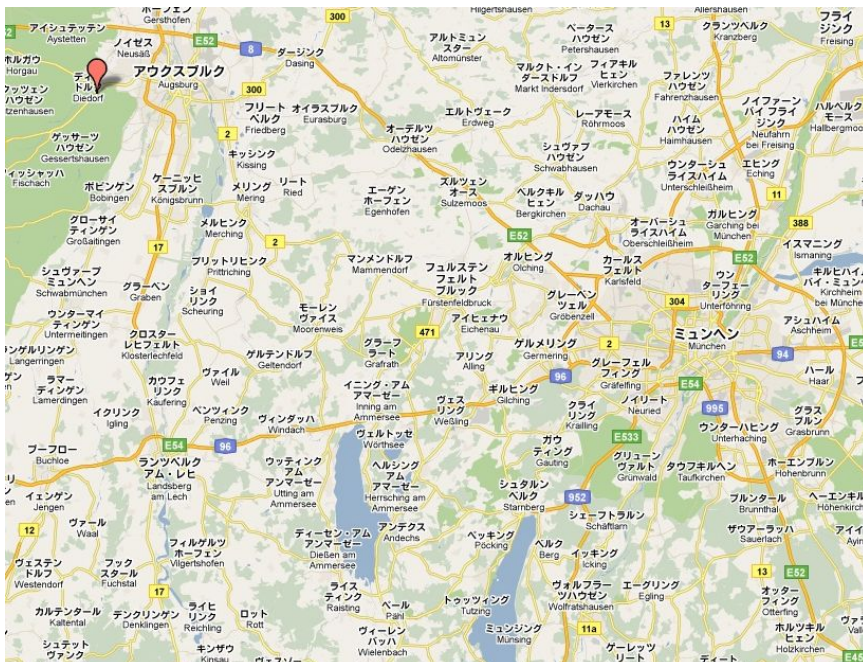
また、前日回れなかったブルーノ・タウト及びミーマール・シナンのモスクを回ります。



□10月11日(火) イスタンブール ミュンヘン 移動日

午前中、自由行動。昼からバスにて空港へ移動。

□10月12日(水) ミュンヘン アウグスブルグ カイムファルベン ミュンヘン住宅展示場



アウグスブルグからカイムファルベンへ

## カイクファルベン

ドイツの無機塗料を製造している Keimfarben 社を訪問します。タウトの作品は殆どこの会社の塗料で彩色されました。無機のため、室内に塗装しても揮発性有機化合物の放散が無い事が特徴です。工文社の「月刊建築仕上技術」4、5月号にその紹介が掲載されています。



## 建築家ブルーノ・タウトと色彩

田中 辰明  
お茶の水女子大学 名誉教授



写真4 ベルリン郊外のダーレビッツに建つタウト旧宅



写真5 ダーレビッツのタウト旧宅2階アトリエ



写真6 ダーレビッツのタウト旧宅、1階居間から庭を見る。彩色された植栽鉢

この住宅はカイクファルベンの無機塗料で塗装された

※特徴的な写真を24-27ページのカラーページで紹介します。  
その他の写真は28ページ以降をご覧ください。(編集)



写真7 熱海作にある日知地蔵の浄土(タウトの瓦が面に残る唯一の作品)



写真8 ファルケンベルクの田園都市住宅の玄関



写真9 ファルケンベルクの田園都市住宅の玄関



写真10 ファルケンベルクの田園都市住宅

写真を除き、これら建物はカイトムファルベンの無機塗料で塗装された



写真21 ベルリン街シェーナウ通りの集合住宅



写真22 ベルリン街ケーテルのフライエントリ集合住宅玄関



写真23 ベルリン街トリア通りの集合住宅



写真24 ベルリン街トリア通りの集合住宅

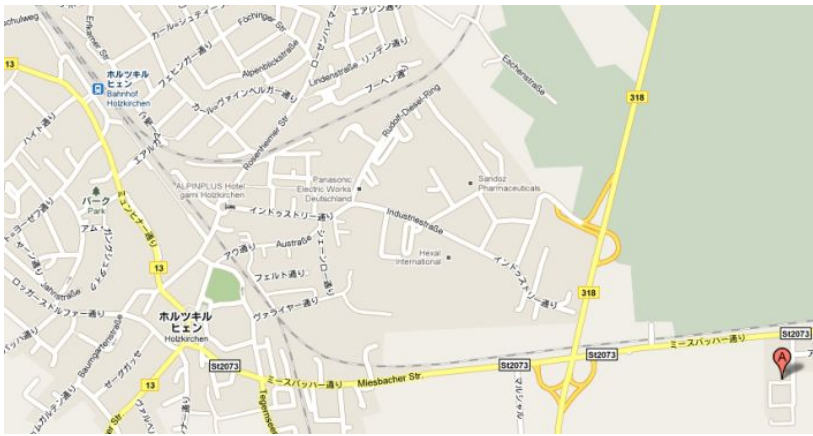


写真25 ベルリン街ホーエンシェーンハウゼンの住宅

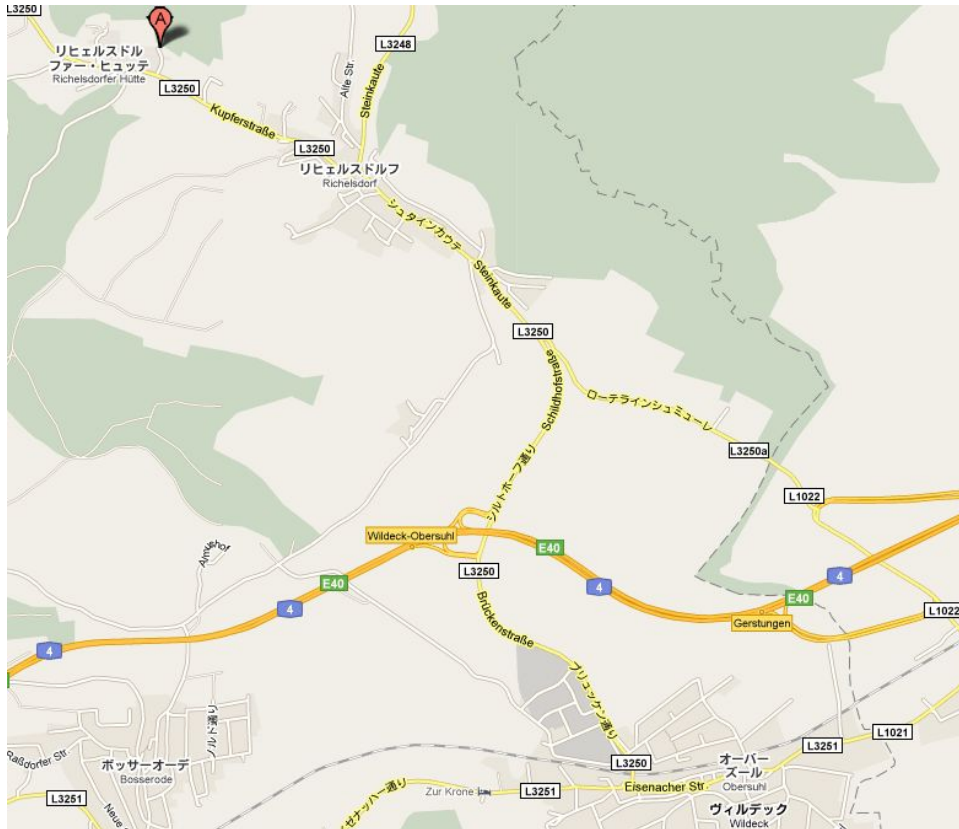
これら建物はカイトムファルベンの無機塗料で塗装された

□10月13日(木) ミュンヘン ホルツキルヘン フラウンホーファー建築物理研究所

フラウンホーファー建築物理研究所(ホルツキルヘン)を訪問します。研究所より、訪問を歓迎するとの連絡が来ています。



10月14日(金) ミュンヘン アイゼンナッハ アレスコ本社訪問



アルセコ本社 alsecco GmbH Kupferstraße 50 D-36208 Wildeck

Fon (0049) (0) 3 69 22 / 88 - 0 Fax (0049) (0) 3 69 22 / 88 - 330 E-Mail kontakt(at)alsecco.com

Eisenach には Wartburg 城と言うマルチン・ルターが幽閉されつつ(実は匿われていた)ギリシャ語の聖書を独訳した城があります。プロテスタントの聖地です。当時ドイツでグーテンベルクの印刷術が開発されました。これによりルター訳の聖書が多くの人にによって読まれ、ドイツ語が統一されました。他に本がない時代ですから、多くの読者を得てドイツ人にいかに生きるかを教えました。この城に行きます。城の中にはマルチンルターが匿われていた部屋もあります。



Eisenach には他に楽聖 Bach の生家があります。またルターの家もあります。(学生時代に住んでいた)

□10月15日(土) アイゼナツハ Wittenberg デッサウ ベルリン

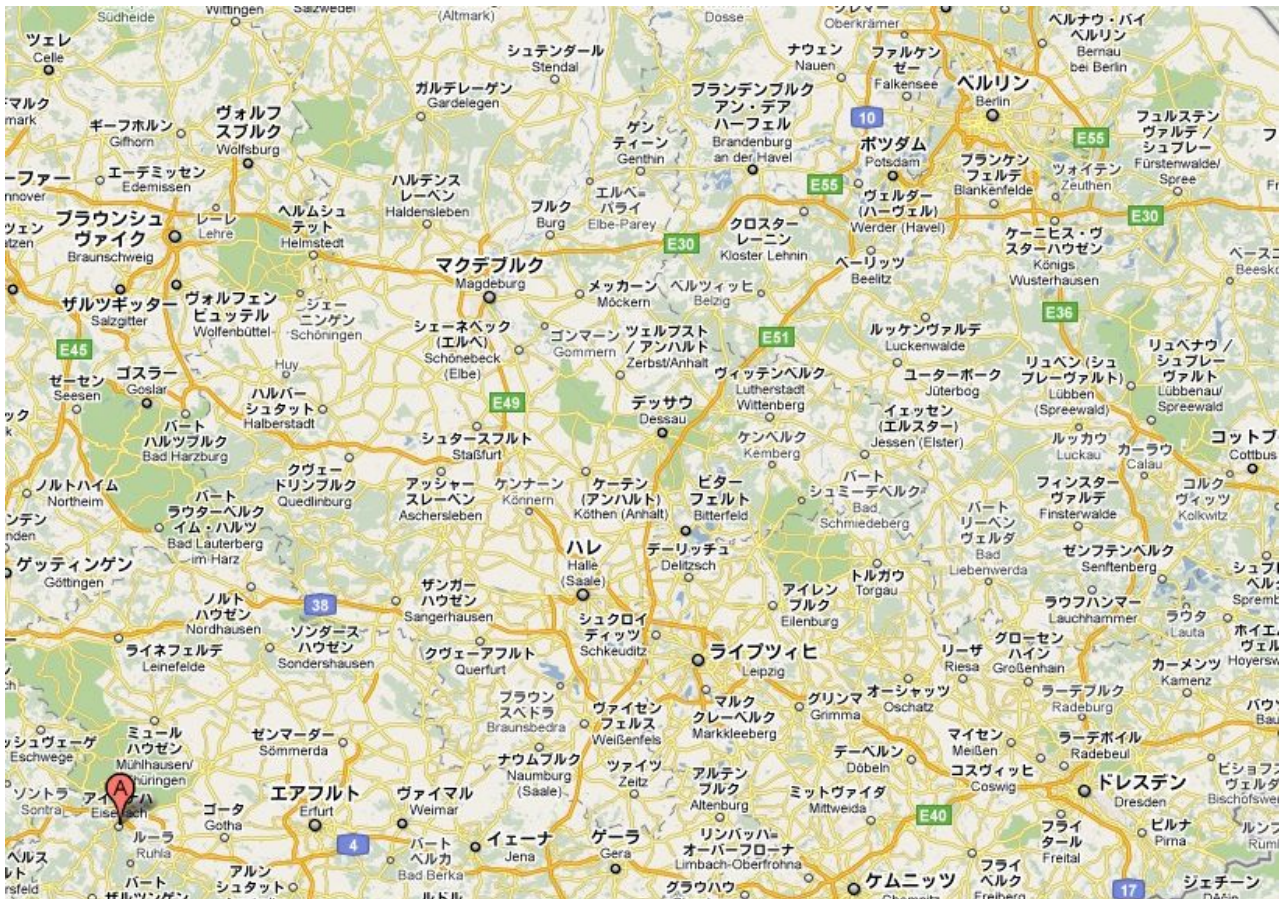
Eisenach からバスで Dessau へ行く途中に Wittenberg という町があります。ここにルターが95ヶ条の意見書を叩きつけたシヨロスキルヒエ(Schlosskirche)という教会があります。宗教改革にとって、また世界史にとって重要な場所です。ドイツの外断熱を研究するのは意義があります。しかしこれを正しく理解するにはドイツ人の考え方を理解する必要があります。ドイツ人精神に大きな影響を与えたルターを理解することも大切な事と存じます。Bauhaus はワイマール共和国時代に建築と工芸の教育を行う機関として設立された学校です。当初は Weimar にありましたが、Dessau に移転、多くの著名建築家、画家、工芸家を排出しました。



ここには教師の家があります。有名建築家、画家が住んでいました。



校長の Gropius が住んでいた家(古いだけに一番粗末)



アイゼナツハから Wittenberg・デッサウ経由 ベルリンへ

□10月16日(日) ベルリン

地下鉄で Onkel Toms Hütte の団地に行きます。ここに「建築は釣合の芸術である」と記したタウト顕彰碑があります。



パパガイ地区という色あざやかな窓を沢山楽しめます。



地下鉄駅にはタウト設計の駅中商店街があります。

さらにベルリンの下町ノイケルンでタウト設計の商業建築2件を見学します。



田中辰明先生がタウトの研究を始めるきっかけとなった集合住宅です。

1972年の事、早稲田の建築学科教授であった武基雄教授がベルリンを訪ねてこられ、ご案内した集合住宅です。武先生はこの住宅の前に無言で立ち暫く動きませんでした。恐らくタウトが早稲田で講義をした時の材料であったと想像されます。

□10月17日(月) ベルリン イスタンブール 成田空港

ベルリン テーゲル空港 イスタンブール経由で日本への帰路

□10月18日(火) 帰国 10:10 成田空港着